

# 全木連時報

6月25日(土曜日)

(第567号) (毎月25日発行)

平成17年(2005年)

発行所

社団法人 **全国木材組合連合会**

代表者 **後藤隆一**

東京都千代田区永田町2-4-3 ☎(3580)3215

URL <http://www.zenmoku.jp>

定価 年500円

『全木連時報』の購読料は年会費に含まれています。



木材産業シンボルマーク

昭和33年12月15日第三種郵便物認可

## 森林を育む木の住まい普及推進事業がスタート

### 街角木ポイントを整備

### 既存展示会でフェア開催

全木連は、林野庁の助成を得て、今年度から、間伐材等、国産材の利用促進のため、木造住宅の販促支援、木のPRのための展示会の開催支援及び木との触れあいの場の提供などを行う「森林を育む木の住まい普及推進事業」をスタートさせる。国費総額五千万円のうち、三千二百万円は二分の一の補助率となっている。本事業の概要は、次のとおりであり、都道府県木連はじめ、木材関係団体・個別企業の協力を願う次第である。

#### 一 趣旨

地球温暖化防止・循環型社会を実現するためには、木材需要の大宗を占める住宅部門における間伐材等地域材の利用を推進することが重要となっている。

このため、木材産業と住宅産業間伐材等地域材での家づくりを普及するNPO等との連携により、「ここまで使える間伐材」をキーワードとした消費者セミナーやフェアの開催、消費者の五感に訴えるアクセスポイント「街角木ポイント」の整備等、消費者に直接働きかけるPR活動を総合的に実施

#### 二 事業内容

(一) 販売促進支援事業

間伐材等地域材を活用した住宅に興味を持った消費者に対し、首都圏を中心に木材産業と住宅産業NPO等が連携して実施する消費者セミナーや企業が消費者に直接PRするフェアの開催等を行う。

(二) 情報提供事業

首都圏を対象に、より身近な場所体験しながら理解を深めるよう、材木商等の持つ「地域の工務店・製材業とのつながり」、地域材の知識」等を活用して、消費者が

## 庄司全木連会長、並木全木協連会長 各県木連の総会に飛び回る

昨年五月に会長に就任してから満一年が経過した庄司橙太郎全木連会長と並木瑛夫全木協連会長は、ともに積極的に全国の意見を聴くことに努めており、精力的に業務をこなしている。特に五月の総会シーズン中は、各都道府県木連や関係団体の総会に駆け回った。庄司会長は、全木連総会の終了した翌週の五月十六日には、全市連総会に出席のため名古屋へ出張。これを皮切りに二十三日に情報センター理事会、二十六日・住木センター理事会、二十七日に岡山市での全買連総会に出席し、その足で二十八日の日本木青連大会に出席するため岐阜県高山市へ回った。三十一日・東京都木連総会、六月

間伐材をはじめとする地域材や木造住宅についての情報を常時入手できる「街角木ポイント」を整備

#### 目次

- 一 面 森林を育む木の住まい普及推進事業がスタート 庄司・並木両会長行動メモ
- 二 面 自民党の会合で庄司会長が要請 JAS展示会日程
- 三 面 御神木祭行われる 平成十六年の製材工場数は九千四百二十
- 四 面 景況調査 県木連役員異動

し、間伐材等地域材を材料とする木工教室や、工務店や産地と連携した間伐材をはじめとする木材利

用ノウハウの勉強会の開催等、消費者が間伐材等の地域材を直接見る、触れる、加工する機会を提供する。

三 事業の企画運営  
(一)森林を育む木の住まい普及推進事業企画委員会

森林を育む木の住まい普及推進のため、木材・住宅フェア、消費者セミナー、販売促進ツール、広告宣伝、街角木ポイント運営要領作成及び管理のための検討を行うとともに、報告書を作成する。

この委員会は、学識経験者、消費者関係、環境NGO、木材業界、木造住宅関係者等から構成し、必

### 木材需要拡大・原木安定供給を要望

#### 自民党の会合で庄司会長が意見表明

庄司全木連会長は、五月十三日に開催された自由民主党の有志議員による「林業・木材産業活性化協議会」(座長「野呂田芳成衆議院議員」)に出席し、木材利用の促進と原木の安定供給について次のように要望した。

我が国の森林・林業を生き返らせるには、川下業界の活性化こそ重要と考えており、二つの点についてご提案する。

#### 一つは木材需要の拡大である。

(一)一般消費者に対し、木を使うことの意義を説明したマスコミによる大々的PRの実施、さらに木材利用を国民運動に  
(二)グリーン購入法において一般

要に応じワーキング委員会を設置する。  
委員会は三回程度開催することを予定している。

なお、本事業の一環として、間伐材・国産材利用推進のための「木材・住宅フェア」の開催を検討しているが、ここ数年、東京、横浜、埼玉、名古屋、大阪、神戸で実施した木材フェアのような大きな会場を借り切って大規模に実施するような形ではなく、既存の各種展示会等の一角で、フェアを行う予定である。  
現在、候補として挙げている展

#### 製材を指定

(三)公共施設への地域材の優先使用の義務付け、及び現在農林水産省において実施中の「木材利用拡大計画」を全省庁へ拡大  
(四)木材利用、木造建築に関する技術開発、データ整備にかかる支援

#### 二つ目は原木の安定供給である。

住宅建設会社から木材の安定供給を求められている。今、これに応えられるのは外材。しかし、国産材への潜在的需要はあるので、安定供給の仕組みが必要。特に原木の安定供給が製材工場の規模の拡大にとって重要。これがコストダウン、品質の安定を可能にし、競争力の向上になる。

示会は次のとおりである。

全国建具展示会「平成十七年六月十八日(金)～二十日(月)三日間・パシフィコ横浜展示場

木質建材展におけるJAS木

質建材展示(ナイス・フェアを利用した場合)「平成十七年八月六日(土)～七日(日)二日間、東京ビックサイト  
JAPAN DIY HOME CENTER SHOW「平成十七年八月二十五日(木)～二十七日(土)三日間、幕張メッセ国際展示場  
2005サステナブル建築会

議東京大会展示会「平成十七年九月二十七日(火)～二十九日(木)三日間、東京高輪プリンスホテル国際館ハミール  
木造住宅フェア2005(中部地域を対象)「平成十七年十月八日(土)～九日(日)二日間、パークアリーナ小牧  
エコプロダクツ2005「平成十七年十二月十五日(木)～十七日(土)三日間、ビックサイト  
建築・建材展2006「平成十八年三月上旬頃(四日間・ビックサイト)

### JAS展示会開催日程など決まる

平成十七年度のJAS製材品普及推進展示会(農林水産祭参加行事)は、以下の要領で開催することとなった。これは、六月十四日に、主催三団体のほか、展示会の審査委員長、開催予定市場及び関係行政機関等の関係者による第一回実行委員会を開催し決定したものである。

- 一 開催目的  
JAS製材品は、品質・性能が保証されたものであり、建築・設計等の需要者ニーズに対応した信頼される製材品である。  
このようなJAS製材品の普及を図るためJAS製材品普及推進展示会を開催し、JAS製材品の流通の拡大と普及を図り、もって製品品質の改善、生産技術の向上
- 二 主催者  
全国木材組合連合会、全日本木材市場連盟、全国木材市売買方組合連盟の共催とする。
- 三 開催会場(別表)
- 四 出品材に対するJAS展審査要領の「審査項目と採点の細目」については、昨年と同様に、暫定的に次のとおり配慮することとした。

乾燥材と未乾燥材の差の解消のため、昨年同様に、未乾燥材であっても減点しない方式を採用する。  
工場における出荷材のうち、JAS格付実績については、開催年度に認定を受けた工場にあって

おかげさまで30年  
中型グループ共済

### 企業経営に安心を提供します 全木連グループの各種共済制度

従業員のために 経営者のために	中型グループ	施設賠償 PL共済	第三者への事故対策に	
	大型 L型 無配当型	各総合保障 プラン	木退共	従業員の退職金の準備に
			積立終身	経営者の退職金などの準備に

などの備えに  
ケガ・病氣入院

全国木材協同組合連合会

〒100-0014 東京都千代田区永田町2-4-3  
TEL 03-3580-3215(代)



御神木祭が待たれる選定された直後の御神木。左右となり合せて二本立つ。周囲はこの後整地されて御杣始祭が行われる。(写真提供、並木全木協連会長。4月23日、木曾官材市売協で開催の全木協連の優良国産材製材品展示会のおり、会長自ら撮影したもの)。

### 特別記事 伊勢神宮御杣始祭・御神木祭執り行われる 長野県木曾の木材関係者が努力

二十一年に一度行われる伊勢神宮の式年遷宮は有名であるが、遷宮に使用される御神木を伐り出す御杣始祭が六月三日に、御神木を神宮に送るための儀式である「御神木祭」が六月四日から六日にかけて、長野県木曾の上松町周辺で執り行われた。三日の御杣始祭は御神木となる立木の選定など十分な事前の準備を経て執り行われた。この御神木を上松町内を曳き歩き、奉安のうへで、芸能が奉納され、伊勢に向けて奉送する一連の儀式が御神木祭である。

は、減点対象としないこととし、それ以外の工場にあつては、格付実績さえあれば減点なしとし、実績ゼロの場合は二十点減点とする。JAS製材品の木材市場への出荷実績については、開催年度に認定を受けた工場及び初出展工場にあつては、減点対象としないこととする。ととし、それ以外のJAS認定工場にあつては、昨年の市場出荷実績が一回以上あれば減点しない。ただし、実績がない場合は十点減点する。出品量については、構造用製材及び下地材は従来どおり五㎡とする。

#### 開催会場

審査日	展示日		開催予定会場
8月1日	8月2日	東海・北陸	㈱東海木材相互市場西部市場
8月3日	8月4日	関東	東京木材市場㈱
9月7日	9月8日	中国・四国	㈱津山総合木材市場
10月5日	10月6日	関東	丸宇木材市売㈱北浜市場
10月18日	10月19日	東海・近畿	ウッドピア市売協同組合
11月8日	11月9日	関東	丸宇木材市売㈱大栄浜市場
11月21日	11月22日	九州	熊本木材㈱

御神木は、遷宮に使用される木材のうちでも、御神体を収める器に使われるため、特別な木材として扱われる。式年遷宮は、千年以上にわたり連綿と伝えられた日本の精神風土に根ざすもの。次回の遷宮は六十二回目となり、平成二十五年に予定されている。御神木祭は、遷宮にあわせて二十年毎に行われる儀式で前回は昭和六十年に行われた。遷宮に関わる行事の中では一番最初の行事にあたる。連綿と続くとはいうものの、二十一年に一度で、地元関係者の後継難もある現在、伐採技術の伝承な

## 製材工場数は九千四百二十工場

### 平成16年製材基礎統計

農林水産省が四月二十二日に公表した「平成十六年製材基礎統計」によると、我が国の平成十六年末の製材工場数は、九千四百二十工場となり、前年より五百二十工場減少した。出力階層別では、三百キロワット未満の各階層で前年より工場数が減少している。このため、総出力数は、前年比五・九%減の五万五千八百八十八人となった。一工場あたりの平均出力数は、九十三・三キロワット、平均従業員数は、前年比三・三%減の八十七万八千五百六十二キロワットになった。従業者規模別では、四人以下の工場から五十人以上の工場までの各規模で前年より工場数が減少している。これにより、全従業者数は前年比五・九%減の五万五千八百八十八人となった。

御神木は内宮と外宮の二本が必要であり、それぞれが上質な材であることは勿論のこと、二本の先端が交叉して伐倒されなければならぬなど、現在の資源事情からすると越えるべきハードルは高いものがある。伐採の方法も、古式のとおり、幹の三方向から斧を入れる「三ツ尾切り」または「三ツ尾切り」といわれる難度の高いもの。高度の技術が求められる。御杣始祭と御神木祭はこれらすべてクリアしたうえで行われたもの。関係者の努力に敬意を表す。

なお、木曾谷とともに岐阜県加子母の裏木曾国有林でも五日、御材の伐採式が同様に行われた。素材消費量は、平成十六年には

【統計表】

1 製材工場数  
(1) 製材用動力の出力階層別工場数及び総出力数(12月31日現在)

年次	計	出力階層別工場数					総出力数 kW以上
		7.5~ 22.5kW未満	22.5~ 37.5	37.5~ 75.0	75.0~ 150.0	150.0~ 300.0	
平.16	9 420	906	2 144	3 429	1 630	814	497 878 562
15	9 920	992	2 265	3 617	1 706	844	496 908 249

工場数: 工場  
出力数: kW  
比率: %

(2) 従業者規模別工場数及び従業者数(12月操業工場のみ)

年次	計	従業者規模別工場数					従業者数
		4人以下	5~ 9	10~ 19	20~ 29	30~ 49	
平.16	9 407	5 593	2 393	1 051	237	97	36 55 118
15	9 875	5 871	2 553	1 063	252	99	37 58 593

工場数: 工場  
従業者数: 人  
比率: %

景況調査 = 全木協

5月分集計表 ( )内は実数

【流通部門】 モニター数97 回答数75 回収率77%

当月の状況			
販売量	増加24% (18)	変わらず51% (38)	減少25% (19)
仕入量	増加24% (18)	変わらず44% (38)	減少32% (24)
販売価格	上昇 3% (2)	変わらず89% (67)	下降 8% (6)
仕入価格	上昇 8% (6)	変わらず85% (64)	下降 7% (5)

来月の見通し			
販売量	増加29% (22)	変わらず60% (45)	減少11% (8)
仕入量	増加24% (18)	変わらず67% (50)	減少 9% (7)
販売価格	上昇 3% (2)	変わらず89% (67)	下降 8% (6)
仕入価格	上昇 5% (4)	変わらず87% (65)	下降 8% (6)

3か月後相場予想	強 含 み	保ち合い	弱 含 み
米 材	3% (2)	87% (55)	10% (6)
南 洋 材	11% (7)	82% (50)	7% (4)
北 洋 材	3% (2)	89% (53)	8% (5)
国 産 材	4% (3)	76% (50)	20% (13)
建 材	9% (5)	84% (49)	7% (4)

乾燥材取引の頻度	増 加	変らず	減 少
	38% (27)	62% (44)	0% (0)

【製造部門】 モニター数97 回答数75 回収率77%

当月の状況			
販売量	増加25% (19)	変わらず50% (37)	減少25% (19)
仕入量	増加21% (16)	変わらず43% (32)	減少36% (27)
販売価格	上昇 0% (0)	変わらず88% (66)	下降12% (9)
仕入価格	上昇 8% (6)	変わらず69% (52)	下降23% (17)

来月の見通し			
販売量	増加33% (25)	変わらず55% (41)	減少12% (9)
仕入量	増加24% (18)	変わらず59% (44)	減少17% (13)
販売価格	上昇 0% (0)	変わらず89% (67)	下降11% (8)
仕入価格	上昇 9% (7)	変わらず83% (62)	下降 8% (6)

3か月後相場予想	強 含 み	保ち合い	弱 含 み
米 材	14% (5)	83% (30)	3% (1)
南 洋 材	4% (1)	96% (22)	0% (0)
北 洋 材	13% (4)	78% (25)	9% (3)
国 産 材	6% (3)	70% (37)	24% (13)

プレカットの動向			
受注後、加工までの待ち時間	1ヵ月以内	1ヵ月	1ヵ月以上
	59% (13)	41% (9)	0% (0)

国産材は伸びていると見られるが、全体では前年より減少した。ただし、工場数が減少したため、一工場当たりの素材消費量は、前年比四・四%増加し、二千二百六十五m<sup>3</sup>となった。  
製材品の出荷量も全体では前年より減少し、用途別では木箱仕組板・こん包用材が前年より増加した以外には、建築用、土木用、家具建具用とも、それぞれ前年より減少した。ただ、建築用材の中で人工乾燥材の出荷量は前年比八・八%増加し、二百十萬九千m<sup>3</sup>になった。これは全出荷量の一五・五%にあたり、建築用材に限れば一九・一%にあたる。

おしらせ

各県木連役員異動

各県木連の今期総会では、役員の変更期であったところもあり、代表者等が交替した団体があるのを紹介する。  
会長・理事長交替 山形 阿部政昭(富樫憲一)、埼玉 坂東正一郎(木村卓司)、東京材商 多田邦彦(早川淳)、新東京 阿部信義(河野義定)、東京原木 市川英治(江間洋介)、富山 小池善英(石灰甚一)、静岡 杉山陽一(新聞博二)、山口 木協連 今井昭夫(中井寅之助)、徳島 高木健男  
注( )内は前任者、敬称略  
岡山 幸助、高知 北岡浩(門田成耕)、福岡 角和憲(坂本喬)、長崎 増山忠男(江藤豊)  
事務局役員交替 茨城 関義昭(三次安寿)、栃木 赤羽根肇(村井義男)、静岡 鈴木俊博(中島公望)、京都 林昌也(田中功)、徳島 川下昌員(藤井明)、長崎 大宅靖昭(佐藤信之)、熊本 木協連 柳井純雄(児玉栄二)、宮崎 吉田勝男(谷巖)

林業・木材産業発展のために

お役に立ちます 林業・木材産業信用保証

平成16年6月からスタート!

「グリーンサポート3000」

一定の要件を満たした保証申込みにスピーディに応える無担保保証です。

独立行政法人 農林漁業信用基金 (林業部門)

副理事長 加藤 鐵夫

〒101-8506 東京都千代田区内神田1-1-12 コープビル11階  
TEL 03-3294-5581 FAX 03-3294-5595  
URL <http://www.affcf.com/forestry>